

# 商業教員養成所一覽

## 目次

次	目	頁
一	學年曆	一
一	沿革概略	一
二	實業學校教員養成規程	二
五	商業教員養成所規程	五
五	總則	五
七	學科課程	七
九	學年、學期、休業	九
一	入學、在學、退學	一
一	休學	一
四	試驗、進級及卒業	四
一	生徒心得	一
七	主事	七
九	生徒	九
九	生徒年級表	九
二	生徒年齡表	二
二	生徒身體檢查統計表	二
三	生徒入學前卒業學校別及府縣別表	三
三	卒業生及其就職所	三
六	卒業生府縣別表	六
三		三

# 商業教員養成所一覽

## 學 年 曆

(本校ニ同シ)

## 沿革概略

本所ハ明治三十二年<sup>三</sup>文部省令第十三號實業學校教員養成規程ニ依リ商業學校及商業補習學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スルノ目的ヲ以テ高等商業學校内ニ設置シ同校長之ヲ管理ス、五月高等商業學校教授水島鐵也主任ヲ囑託セラル、同月規則ヲ制定ス、其要、生徒ハ師範學校、中學校若クハ甲種以上ノ商業學校卒業生ニシテ地方長官ノ推薦セル者ノ中ヨリ選抜シ若シ定員ニ滿タサルトキハ一般ニ募集シ試験ニ合格セルモノニ就キ之ヲ選拔ス修業年限ハ二箇年トシ生徒在學中ハ之ニ學資ヲ補給ス九月授業ヲ開始ス

明治三十五年一月水島鐵也主任ヲ辭シ高等商業學校教授東夷五郎主任ヲ囑託セラル、四月東京高等商業學校ニ本所ヲ附設セラル、同月東京高等商業學校教授東夷

五郎主事ヲ命セラル。同月更ニ實業學校教員養成規程ヲ發布セラル。隨テ本所規程ヲ制定ス。其ノ要、舊規則ニ同シ。十月規程中學資補給ノ章ヲ改正ス。同三十六年一月主事東京高等商業學校教授東夷五郎神戸高等商業學校教授ニ任セラレ。二月東京高等商業學校教授佐野善作主事ヲ命セラル。同四十年二月規程中試驗及卒業ノ章ヲ改正ス。十二月規程中ヲ改正ス。是時休學ノ章ヲ設ク。同四十二年五月東京高等商業學校教授佐野善作職ヲ辭シ東京高等商業學校教授奈佐忠行主事ヲ命セラル。同四十四年三月規程中ヲ改正ス。是時修業年限ヲ四箇年トス。同四十五年三月試驗進級及卒業規程中ヲ改正ス。大正四年六月總則、入學、在學退學規程中ヲ改正ス。學資補給ノ七月本所卒業生ノ本校專攻部ニ入學シ得ルコトナレリ。九月學科課程ヲ改正ス。十一月學年、學期、休業規程、試驗進級及卒業規程中ヲ改正ス。學年開始期  
四月ニ變更ス同五年一月入學、在學退學規程中ヲ改正ス。

### 實業學校教員養成規程

文部省令第七號 (大正四年三月三十一日)

第一條 東京帝國大學農科大學附屬農業教員養成所、東京高等商業學校附設商業教員養成所及東京高等工業學校附設工業教員養成所ノ生徒ニハ授業料ヲ徵收

セス

前項養成所ノ研究生ニハ一箇月拾圓以内ノ學資ヲ補給スルコトアルヘシ。帝國大學及文部省直轄諸學校ノ學生生徒ニシテ卒業ノ後實業學校ノ教職ニ從事セントスル者ニハ授業料ヲ免除スルコトヲ得

第二條 前條養成所ノ生徒及前條第三項ニ依リ授業料ヲ免除セラレタル者ハ卒業ノ日ヨリ左ノ期間文部大臣ノ指定ニ依リ實業學校ノ教職ニ従事スヘキ義務ヲ有ス。但シ必要ノ場合ニ於テハ文部大臣ハ他ノ教職ニ従事スルノ義務ヲ負ハシムルコトアルヘシ

一 養成所ノ生徒ハ其ノ在學期間ノ二分ノ一

二 養成所ノ生徒ニシテ學資ノ補給ヲ受ケタル者ハ其ノ補給ヲ受ケタル年限

ニ 第一號ノ期間ヲ加ヘタル期間

三 授業料ヲ免除セラレタル者ハ其ノ免除セラレタル期間ノ二分ノ一

第三條 前條ノ義務期間内ニ於テ學校ニ入學シ若ハ外國ニ留學セントスル者アルトキハ文部大臣ハ時宜ニ因リ之ヲ許可スルコトアルヘシ  
前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者ノ當該學校ニ在學中若ハ外國留學中ノ期間ハ前條ノ義務期間ニ算入セス

第四條 第二條ノ義務期間内ニ於テ文部大臣ノ指定ヲ受ケサルカ爲任意就職シタル者ハ其ノ旨直ニ文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ就職ヲ罷メ又ハ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

前條ノ許可ヲ受ケタル者學校ヲ卒業又ハ退學シ若ハ歸朝シタルトキハ直ニ文部大臣ニ届出ツヘシ

第五條 第一條養成所ノ生徒及同條第三項ニ依リ授業料ヲ免除セラレタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ授業費學費又ハ授業料ヲ償還セシム但シ文部大臣ハ事情ヲ酌量シテ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

一、退學ヲ命セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退學シタルトキ

二、實業學校教員タルノ志望ヲ變更シタルトキ

三、第二條ノ義務ヲ盡サヌ又ハ第三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ入學若ハ留

學シタルトキ

前項授業費ノ額ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ各教員養成所ニ於テ之ヲ定ム

第六條 地方長官ニ於テ文部大臣ノ指定ニ依リ教職ニ従事スル者ニ其義務期間内轉任退職若ハ休職ヲ命セントスルトキハ事由ヲ具シ豫メ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ但シ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタルカ爲當然休職トナリタル者アルトキハ其ノ旨直ニ文部大臣ニ報告スヘシ休職期間滿了ノ爲退職者トナリタル者アルトキ若ハ休職期間中復職ヲ命シタルトキ亦同シ

附 則

第七條 各養成所ニ募集スヘキ生徒ノ員數ハ文部大臣之ヲ定ム

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行前各教員養成所ニ入學シタル者若ハ帝國大學及文部省直轄諸學校ノ學生生徒ニシテ學費ノ補給ヲ受ケタル者ニ關シテハ仍從前ノ規程ニ依ル

商 業 教 員 養 成 所 規 程

第 一 章 總 則

第一條 本所ハ實業學校教員養成規程ニ依リ商業學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二條 本所ノ修業年限ハ四箇年トス

第三條 本所ハ授業料ヲ徴收セス

第四條 削除

第五條 本所ノ生徒ハ卒業ノ後在學期間ノ二分ノ一ノ期間文部大臣ノ指定ニ依リ實業學校ノ教職ニ従事スヘキ義務アルモノトス

第五條ノ二 本所ノ生徒ニシテ左ノ各號ノ一ニ該当スルトキハ授業費ヲ償還スヘキモノトス但シ文部大臣ハ事情ヲ酌量シテ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

一 退學ヲ命セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退學シタルトキ

二 實業學校教員タルノ志望ヲ變更シタルトキ

三 前條ノ義務ヲ盡サヌ又ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケスシテ學校ニ入學シ若ハ

外國ニ留學シタルトキ

前項授業費ノ額ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ本所ニ於テ之ヲ定ム

第六條 生徒心得ハ校長ノ定ムル所ニ依ル

第二章 學科課程

第七條 學科課程ハ左表ノ如シ

科 目	毎 週 時 間			
	第 一 年	第 二 年	第 三 年	第 四 年
一 修 身	一	一	一	一
二 商 業 通 論	二			
三 銀 行 及 取 引 所			三	
四 交 通		三		
五 保 險			三	
六 商 業 簿 記		三		
七 銀 行 簿 記		二		
八 英 文 簿 記			二	
九 計 理 學				一
一〇 商 業 實 踐				六

覽一 所成養員教業商

一一	商業算術	(珠算) 一	二	二
一二	作文	一	一	
一三	書法	一		
一四	商品及商業地理		二	三
一五	應用化學	二		
一六	機械及電氣工學	二		
一七	東洋經濟事情			一
一八	經濟大意	二	二	
一九	經濟原論			二
二〇	貨幣論			一
二一	商業政策			二
二二	財政學			二
二三	統計學			一
二四	法學通論	三		

覽一 所成養員教業商

二五	民法		三	三
二六	商法			二
二七	國際法			二
二八	手續法			二
二九	近世史(英語)	一		
三〇	商業史			二
三一	英語	八	七	五
三二	第二 德、西、國伊文 外國語 第一、第二、第三、第四、第五、第六、第七、第八、第九、第十、第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百		四	二
三三	論理及心理	二		
三四	教育學、教授法		一	一
三五	體操	三	二	二
時間合計		三二	三〇	三二
				三三

第三及第四學年ニ於テ隨時實地授業又ハ見學ヲ爲サシム

第三章 學年、學期及休業

商業教員養成所規程

第八條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第九條 學年中ニ二學期ヲ設テ第一學期ハ四月十一日ヨリ七月二十日ニ至リ第二學期ハ九月十一日ヨリ翌年三月二十四日ニ至ル

第十條 年中休業左ノ如シ

但休業中ト雖モ教員ノ見込ニ依リ或學科ノ補習又ハ實業ノ調査ヲ命スルコトアルヘシ

- 一 毎日曜日
- 一 神武天皇祭
- 一 明治天皇祭
- 一 天長節
- 一 秋季皇靈祭
- 一 神嘗祭
- 一 天長節祝日
- 一 新嘗祭
- 一 紀元節
- 一 春季皇靈祭

- 一 春季休業 三月二十五日ヨリ四月十日ニ至ル
- 一 夏季休業 七月二十一日ヨリ九月十日ニ至ル
- 一 冬季休業 十二月二十五日ヨリ一月七日ニ至ル

第四章 入學、在學、退學

第十一條 本所ハ學年ノ始ニ於テ入學ヲ許ス

第十二條 本所ニ入學スルコトヲ得ルモノハ年齡滿十七歲以上ノ男子ニシテ身體壯健、品行方正且ツ教員タル志望堅固左ノ各號ノ一ニ該當シ入學試験又ハ第十四條ノ無試験檢定及身體檢査ニ合格シタル者タルヘシ

- 一 師範學校ヲ卒業シタル者
- 二 中學校ヲ卒業シタル者
- 三 甲種商業學校ヲ卒業シタル者
- 四 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定ニ合格シタル者
- 五 專門學校入學者檢定規程ニ依リ一般專門學校ノ入學ニ關シ無試験檢定ノ指定ヲ受ケタル者

師範學校、中學校又ハ甲種商業學校ニ在學スル者ニシテ當該學校長ヨリ其ノ年

三月ニ卒業スヘシト認メテレタル者ハ同年ニ於ケル本所入學ニ關シ當該學校ノ卒業者ニ準スルコトヲ得但シ豫定期ニ卒業セザリシトキハ其ノ入學ニ關スル手續ハ總テ效力ヲ失フモノトス

第十三條 入學試験ハ修身、國語、漢文、書法、作文、數學、地理、歴史、圖畫、物理、化學、博物、英語ノ各科目ニ就キ中學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フ

前項ノ學科目ハ時宜ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ經テ其ノ一科目又ハ數科目ヲ省略スルコトアルヘシ

第十四條 師範學校、中學校又ハ甲種商業學校ヲ卒業シタル入學志願者ニシテ所定ノ學年間當該學校ニ在學シ各學年首位ヨリ算ヘテ及第者總數ノ十分一以內ノ席次ヲ有シ卒業ノ際第五位以上ノ席次ニ在リタル者ハ若干名ヲ限リ試験ヲ用キ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十二條 第二項ニ規定セル入學志願者ニシテ在學中既往ノ成績前項ノ規定ニ該當スル者ハ無試験檢定ヲ出願スルコトヲ得但シ卒業期ニ於テ前項規定ノ成績ヲ得ザリシトキハ右出願ノ效力ヲ失フモノトス

本條ニ該當スル者ノ身體ハ先ツ身體檢査證ニ依リ檢査シ入學前更ニ本所ニ於

テ檢査ヲ行フモノトス

第十五條 削除

第十六條 募集スヘキ生徒ノ員數及期日等ハ其ノ都度公告スヘシ

第十七條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ保證人一名ヲ立テ誓書ヲ認メ其ノ年四月十日迄ニ本校ヘ提出スヘシ

第十八條 保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ東京市内ニ於テ一家ヲ立テ生徒ノ身分ニ關シ一切引受クルニ足ルヘキ關係及相應ノ資産ヲ有スル者ニ限ル

第十九條 保證人死去若ハ前條ノ資格ヲ失ヒタルトキハ速ニ他人ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ誓書ヲ差出スヘシ

第二十條 削除

第二十一條 生徒若シ學業ヲ怠リ又ハ品行修ラヌ若ハ疾病等ノ故ヲ以テ成業ノ見込ナシト認ムルトキハ退學セシムヘシ

印紙

誓書

私儀今般商業教員養成所へ入學御許可相成候ニ付テハ御規則ヲ遵守シ專心勉勵可仕又卒業ノ後ハ御規定ノ義務ニ服シ可申候仍テ誓書如此候也



年 月 日

本籍族稱職業  
(某子弟又ハ被後見人等)  
氏 名

印

何年何月何日生

宿所 東京市何區何町何番地

前書ノ趣相違無之ニ付拙者保證人ニ相立テ本人ニ係ル一切ノ事件引受可申  
仍テ保證如此候也

但貴所御規則ハ總テ承知致シ候也

本籍族稱職業

保證人 氏 名

印

何年何月生

宿所 東京市何區何町何番地

東京高等商業學校長氏名殿

前書保證人某ハ丁年以上ニシテ當區内ニ於テ一家ヲ立ツル者ニ相違無之候也

年 月 日

何 區 長 印

第五章 休 學

第二十二條 生徒疾病又ハ避クヘカラサル事故ニ因リ滿二箇月以上修學シ能ハ  
スヲ認ムルトキハ保證人連署ヲ以テ校長ニ願出テ其ノ許可ヲ得テ滿壹箇年以

内休學スルコトヲ得其ノ疾病ニ罹リタルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ  
要ス但シ其疾病平癒シ又ハ事故止ミタルトキハ休學期間内ト雖其ノ旨届出テ  
就學スルコトヲ得

第二十三條 生徒ノ陸海軍ノ現役ニ在ル者及召集中ノ者ハ校長ノ許可ヲ得テ其  
間休學シ現役又ハ召集終レハ直ニ其ノ原級ニ復スルコトヲ得

第六章 試驗進級及卒業

第二十四條 試驗ヲ分チテ學年試驗及學期試驗ノ二種トス

學年試驗ハ其ノ學年中ニ履修シタル學科ニ就キ學年末ニ於テ之ヲ執行ス  
學期試驗ハ第一學期末ニ於テ各科目ニ就キ之ヲ施行ス但シ每週教授時數一時  
間ノ學科ニ就キテハ學期試驗ヲ省略スルコトアルヘシ

第二十五條 學科目ニ依リ便宜之ヲ數課目ニ分チ其成績ヲ定ムルコトアルヘシ

第二十六條 各學科目學年ノ成績ハ學年試驗ノ成績ト學期試驗ノ成績トヲ斟酌  
シテ之ヲ定ム

第二十七條 成績ハ點數ヲ以テ定メ百點ヲ滿點トス

各科目ノ點數五十點以上平均點數六十點以上ヲ得タル者ヲ及第トス但シ五十

點未滿ノモノ一科目ナル場合ニ限り特ニ及第トスルコトアルヘシ  
第二十八條 珠算作文書法商業實踐外國語及體操ハ平常ノ成績ヲ以テ學期試驗  
及學年試驗ノ成績ニ代フルコトアルヘシ

第二十九條 學期試驗ニ缺席シタル者ハ特ニ校長ノ許可ヲ經ルニアラサレハ學  
年試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第三十條 學年試驗ニ缺席シ追試驗ヲ受ケントスル者ハ其ノ試驗期日內ニ其旨  
ヲ願出ツルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ學期試驗ノ成績ト平常ノ勤惰トヲ審査シテ之ヲ許可スル  
コトアルヘシ

本條ニ依リ試驗ヲ施行スル場合ニハ其ノ科目ニ對スル評點ニ係數奇零九ヲ乘  
シテ得點トス

第三十條ノ二 不合格者ニシテ前學年ニ於テ七十點以上ノ點數ヲ得タル科目ニ  
就キテハ其ノ試驗ヲ省略スルコトアルヘシ

第三十一條 卒業者ニハ卒業證書ヲ授與ス  
卒業ノ席次ハ各學年ノ成績ヲ勘合シ其ノ優劣ニ依リ之ヲ定ム

附 則

大正四年七月以前ニ入學シタル者ニハ本規程中第五條及第五條ノ二ハ適用セ  
ス仍從前ノ規定ニ依ル

本規程中學科課程ハ大正四年九月十一日ヨリ之ヲ施行ス但シ該學科課程施行  
ノ際現ニ第二等級以上在學ノ生徒ニ課スヘキ學科課程ハ其ノ卒業ニ至ルマテ  
仍從前ノ規定ニ依ル

生徒心得

第一條 忠孝ヲ旨トシ本分ヲ重シ義務ヲ守リ人ニ接スルニ溫良謙讓事ヲ執ルニ  
誠實果敢以テ真正ノ教育者タルヘキ性格ヲ養成スヘシ平素攝生ニ注意シ身體  
ノ強健ヲ圖リ以テ快活ノ精神ト進取ノ氣象トヲ養成スヘシ

第二條 常ニ教室ノ神聖ナルヲ思ヒ秩序ヲ重シ專心以テ學術ヲ習得スルヲ勉ム  
ヘシ

長上ニ對シテ敬禮ヲ行フヘキハ勿論生徒相互ノ間ニ於テモ亦禮讓ヲ重スヘシ  
第三條 登校ノ節ハ制服制帽ヲ着用スヘシ

- 第四條 放課ノ時間ト雖靜肅ヲ旨トシ奇モ喧噪ノ行爲アルヘカラス
- 第五條 校内ニ在リテハ所定ノ場所以外ニ於テ飲食喫烟スヘカラス
- 第六條 病氣其他ノ事故ニヨリ缺席セントスルトキハ其理由ヲ記シタル届書ヲ差出スヘシ其缺席二週日以上ニ及フトキハ保證人ノ連署ヲ要ス但シ病氣ノトキハ醫師ノ診断書ヲ添フヘシ
- 第七條 生徒又ハ保證人ニシテ氏名ヲ改メ又ハ轉籍轉居シタルトキハ直ニ其旨ヲ届出ツヘシ
- 第八條 校内ニ於テ事ノ何タルヲ問ハス許可ナクシテ漫ニ會合スヘカラス
- 第九條 凡ソ告示ハ之ヲ掲クルノ日ヨリ一般ニ知了シタルモノト認ムルヲ以テ常ニ之ニ注意スヘシ
- 第十條 學校ノ器物又ハ圖書ハ專ラ鄭重ニ之ヲ取扱フヘシ若シ過テ汚損又ハ亡失シタルトキハ直ニ其旨ヲ届出テ處置ヲ受クヘシ
- 第十一條 諸規程ニ悖戻シ若ハ長上ノ命令訓誡ニ従ハサル者ハ各其情狀ニ照シ處罰ヲ加フヘシ

### 主 事

東京高等商業學校教授理學士 奈 佐 忠 行 靜岡縣 平民

### 生徒(三十五人) (大正七年五月三十一日調)

#### 第 四 年 生 (五 人)

千 葉 多 末 青 森  
 足 立 一 郎 兵 庫  
 田 中 英 吉 靜 岡  
 相 馬 忠 雄 新 潟  
 多 鹿 茂 雄 兵 庫

#### 第 三 年 生 (九 人)

近 本 與 一 兵 庫  
 有 田 三 代 次 廣 島  
 仲 佐 祐 作 千 葉  
 田 尻 愛 義 島 根

#### 第 二 年 生 (九 人)

堤 瀧 三 靜 岡  
 渡 邊 喜 三 郎 巖 手  
 宗 像 善 雄 福 島  
 森 武 臣 岡 山  
 平 野 保 三 千 葉  
 吉 田 利 吉 岡 山  
 加 藤 政 一 愛 知  
 山 崎 八 郎 新 潟  
 高 笠 原 重 三 愛 知  
 田 原 輝 士 和 歌 山

主 事 生 徒

種	別	人員
第 三 年	第 四 年	九 五

生徒年級表

(大正七年五月三十一日調)

第一年生 (十二人)

中島茂岐	松本五郎
一條貴宮	藤田茂
京谷謙吉	儀間真謹
豐田雄吉	原島省吾
馬場信宮	山崎壽一
洞口佐久	大庭一郎
笠原五郎	小沼恭
内田量平	中後俊二
平崎玉	兵庫

種	別	人員
第 一 年	第 二 年	一 九
計		三 五

生徒年級表

生徒身體檢查表

(大正七年四月檢查)

種 別	最 高		最 低		均
	年 月	身 長	年 月	胸圍盈虛ノ差	
第 四 年	二七、〇四	二二、〇七	二四、〇四		
第 三 年	二五、一一	一九、〇九	二二、一一		
第 二 年	二五、〇四	二〇、〇一	二二、〇〇		
第 一 年	二三、〇九	一八、〇五	二二、〇七		

生徒年級表 生徒年級表 生徒身體檢查表

第 一 年	第 二 年		第 三 年		第 四 年	
	平 均	最 少	最 大	平 均	最 少	最 大
五、四六	五、一八	五、八〇	五、四〇	五、二二	五、五五	五、六二
一四、二七〇	一四、一〇〇	一七、二〇〇	一四、六五〇	一三、六〇〇	一五、六四〇	一八、一〇〇
二〇	二〇	三七	三五	二五	五〇	三四
一	九		九		三	

備考 平均ハ最大最小ノ平均ニアラスシテ總人員ノ平均ナリ

道 府 縣	種 別		師 範 學 校	中 學 校	商 業 學 校	小 計
	平 均	最 大				
北 海 道	一	一	—	—	—	一
東 京 都	—	—	—	—	—	—
大 阪 府	—	—	—	—	—	—
神 奈 川 縣	—	—	—	—	—	—
兵 庫 縣	—	—	—	—	—	—
長 崎 縣	—	—	—	—	—	—
新 潟 縣	—	—	—	—	—	—
埼 玉 縣	—	—	—	—	—	—
群 馬 縣	—	—	—	—	—	—
千 葉 縣	—	—	—	—	—	—
茨 城 縣	—	—	—	—	—	—
計	二	一	—	—	—	—

生徒入學前卒業學校別及府縣別表 (大正七年五月三十一日調)

生徒入學前卒業學校別及府縣別表

大福高愛香德和山廣岡島島富石福

歌

分岡知媛川島山口島山根取山川井

— — —

— — —

—

— — — — —

生徒入學前卒業學校別及府縣別表

秋山青巖福宮長岐滋山靜愛三奈朽

田形森手島城野阜賀梨岡知重良木

— — — —

— —

— — —

— — — — —

計	沖鹿宮熊佐	兒	繩島崎本賀
二六	一		
八			
一			
三五	一		

卒業生及其就職所

明治三十四年卒業(二十三人)

- 東京海上保險株式會社 小野 十郎 東京
- 市立名古屋商業學校 村 瀨 圭 愛知
- 釜山公立商業專修學校 北川 勝次郎 滋賀
- 文部省 泉屋 清次郎 石川
- 島根縣立商業學校 近藤 達二郎 京都
- 田 中 融 島根
- 伊藤 資生 宮城
- 山口改 瀨戶 口竹二 佐賀
- 增澤 寅次郎 新潟
- 松村 明 敏 栃木
- 打田 喜代太郎 三重
- 白井 源吉 鳥取
- 鈴木 新次郎 靜岡

×印(專攻部卒業者)  
△印(專攻部在學者)  
●印(死亡者)

- 釜山公立商業學校 織田改 岩 田 眞一 福井
- 神戶市立商業補習學校 福士 德平 巖手
- 合資會社長田商店 足達 丑六 高知
- 市立名古屋商業學校 高山 經慶 愛媛
- 香川縣立商業學校 長田 捨藏 兵庫
- 廣根商工學校 寄田 龍彦 愛知
- 株式會社大倉洋紙店 井上 廣太郎 香川
- 大連商業學校 根岸 近仁 新潟
- 同三十六年卒業(二十七人) 加 藤 耕 福井
- 市立小倉商業學校 松本 喜一 富山
- 市立長野商業學校 村 瀨 玄 愛知
- 市立長野商業學校 丸山 辨三郎 長野
- 竹內 正太郎 靜岡
- 川村 瓊一 東京
- 私立錦城商業學校 川村 瓊一 東京
- 私立錦城商業學校 大坂堂島商業學校
- 株式會社名古屋銀行 (一宮支店) 加藤 子 郎 靜岡
- 靜岡市立靜岡商業學校 野田 益太郎 兵庫
- 兵庫縣立神戸商業學校 桑田 仙之助 兵庫
- 私立豊橋商業學校 曾我 智道 靜岡
- 東京市立商業學校 黒川 善一 東京
- 石川縣立商業學校 小室 洵一 栃木
- 市立大阪甲種商業學校 早藤 石太郎 福井
- 株式會社内國貯金銀行 (濱松代理店) 松尾 慶次郎 京都
- 滋賀縣立八幡商業學校 市川 友三郎 靜岡
- 三井物産株式會社臺北支店 森改 田中 千代松 愛知
- 鷲見 基助 岡山
- 岩林 喜之助 兵庫
- 金山 永三郎 島根
- 吉田 茂太郎 香川
- 小 瀧 勝 香川

卒業生及其就職所

私立明星商業學校  
蘇原銀行

宮本實藏 熊本  
村上乙彦 熊本  
北山喜一 大分

北諸縣郡立都城商業學校  
廣島縣立尾道商業學校

川島馬太郎 高知  
高木脩 吉福岡  
河地大輔 山口

追 試 驗

愛媛縣立八幡濱商業學校

岩野由岐太 德島  
飯田豐次郎 富山

同三十八年卒業(二十六人)

市立甲府商業學校 長野廉二 岡山  
日本女子商業學校 森 富次郎 滋賀  
株式會社蘆澤銀行 竹本節藏 廣島  
株式會社三井銀行 石川改 山本知太郎 東京  
七尾町立商業學校 柴山清作 栃木

德島縣立商業學校  
神奈川電氣株式會社

近藤英三 德島  
松田喜三郎 三重  
川尻改 吉永專吉 三重

富士製紙株式會社神崎工場  
茨城縣那珂郡立湊商業學校  
神戸市信々組

廣田嘉一 愛媛  
山本廉二郎 島根  
宮島賢次郎 千葉

株式會社島津製作所  
熊本縣立商業學校

平和長之助 島根  
谷口實次 愛媛

橫濱市立橫濱商業學校  
日本製粉株式會社

唯野真琴 福島  
石井清之助 三重  
鹽田近太郎 香川

いとう吳服店

安田久之助 岐阜  
伊藤最一 香川

仁川公立商業學校

早川小三郎改 竹田正己 神奈川

新潟縣立新潟商業學校  
善隣商業學校

諏訪原義衛 千葉

品川白煉瓦株式會社  
(福島縣平工場)

松田新太郎 靜岡

京都市立第一商業學校

住登勝藏 德島

沖繩縣那霸區立那霸商業學校

吉田光藏 德島

橫濱正金銀行(奉天支店)

篠澤春太郎 愛媛

仁川公立商業學校

栗原重康 福井

同四十年卒業(二十九人)

臺北中學校

齋藤晴次郎 香川

山形縣酒田町立酒田商業學校

瀨谷佐次郎 福島

白木屋

勝田梧郎 茨城

釜山公立商業專修學校

梶原壽一 愛媛

藤田改

水口音三郎 德島

村田長太郎 福井

鐵道院

小原政市 德島

岩瀬脩治 東京  
竹下長之 島根

卒業生及其就職所

市立仙臺商業學校

佐藤善次郎 宮城

中津町立中津商業學校

江渡哲太郎 青森

大垣町立大垣商業學校

貞家喜三郎 愛知

東京キヤリコ製織株式會社

稻葉鶴次 靜岡

市立長崎商業學校

辻文八 長崎

久留米市立久留米商業學校

楠木音次郎 三重

青森市立商業學校

星理作 福島

七尾町立商業學校

內田德彦 愛知

旭硝子株式會社

岩間茂次郎 巖手

佐賀縣西松浦郡立伊萬里商業學校

江口恕一 佐賀

栃木縣立商業學校

山口泰藏 東京

住友電線製造所

喜多野常太郎 和歌山

東亞煙草株式會社(京城)

西村義郎 京都

三越吳服店

倉本進 千葉

福岡市立福岡商業學校

山本規 福岡



商 業 教 員 成 所 一 覽

釜山公立商業學校 太田武三郎 滋賀  
 神戸市立商業學校 鈴木源徳 東京  
 新潟縣西蒲原郡間瀬銅山 高津 範千葉  
 自家營業 小黒省三 福島  
 依知川 治千葉  
 飯田啓三 愛知

同四十二年卒業(二十九人)  
 小倉市立商業學校 山手官藏 福岡  
 京都市立第一商業學校 高橋 福三 岐阜  
 新潟縣立商業學校 櫻井吉雄 茨城  
 鹿兒島市立商業學校 水口庄三郎 徳島  
 シドニ 日本總領事館 玉木勝次郎 徳島  
 千葉縣立銚子商業學校 長谷川正致 千葉  
 福井市立福井商業學校 大和田誠壽 福島  
 靜岡縣沼津町立沼津商業學校 加藤改 賴飼喜平 岐阜

株式會社大正貿易商會 楠間龜楠 和歌山  
 下妻貞雄 新潟  
 武田住太郎 愛媛  
 大 山 綱 志 鹿兒島  
 眞下改 瀨間紀太郎 群馬  
 橋本正路 兵庫  
 北里善從 熊本  
 堀江彦太郎 愛知  
 川上準一 徳島  
 富中參三郎 和歌山  
 澁谷政秀 富山  
 山崎清記 山口  
 西藤杉松 滋賀  
 久保田敬太郎 新潟  
 福島新藏 熊本

商 業 教 員 成 所 一 覽

株式會社山口銀行(東京支店) 萩原駒藏 滋賀  
 谷貝改 後藤清一 岐阜  
 市立甲府商業學校 渡邊 進 茨城  
 宮城縣石巻町立商業學校 金野 榮 岩手  
 興業貯蓄銀行 羽賀鶴松 徳島  
 福岡縣田川郡小學校 重藤一郎 福岡

同四十四年卒業(二十九人)  
 京都市立商業實修學校 錫村 審 新潟  
 佐賀市立佐賀商業學校 千布次郎 佐賀  
 愛知縣名古屋市第九高等小學校 高橋米造 東京  
 兵庫縣立神戸商業學校 大塚貞雄 兵庫  
 臺灣國語學校 小谷大治 高知  
 伊藤治平 愛知  
 久保重徳 愛媛  
 大連商業學校 藤森類之助 香川

卒業生及其就職所

株式會社第百銀行下關支店 林 嘉七 岐阜  
 瀨谷政秀 富山  
 山崎清記 山口  
 西藤杉松 滋賀  
 久保田敬太郎 新潟  
 福島新藏 熊本

鹿兒島市立商業學校 淵 清 入 佐賀  
 靜岡縣沼津町立沼津商業學校 宮本龜藏 靜岡  
 日本製粉株式會社 竹内勝彌 群馬  
 茨城縣那珂郡立湊商業學校 富永保 福岡  
 永井忠 茨城  
 日本毛織株式會社 日下勝二郎 兵庫  
 上海稅關 西川隆一 愛知  
 朝鮮煙草株式會社 加藤止孝 秋田  
 岐阜市立岐阜商業學校 三浦安造 滋賀  
 福井縣師範學校 矢島秀三 福井  
 堀セルロイド株式會社 門山廣明 山形  
 神戸市立女子商業學校 中岡俊造 奈良  
 日露漁業株式會社 小堤健雄 福島  
 新潟師範學校 田村武三郎 栃木

新發田町立商業學校 高橋 清群馬  
 萩原仙政 富山  
 伊勢勇吉 富山  
 澤田匡明 徳島  
 西山種男 高知  
 追 試 驗 金子源三郎 群馬  
 大正四年卒業生(十一人)  
 神戶高等商業學校 ×八木助市 廣島  
 橫濱市立橫濱商業學校 菊田清市 愛知  
 日本製粉株式會社 齋藤幸太郎 新潟  
 仁川公立商業專修學校 吉田義夫 廣島  
 京都市立第一商業學校 ×高松 勤崎玉  
 範多商會 吉村 繁福井  
 神戸市立神港商業學校 松井萬之助 兵庫  
 濱松市立濱松商業學校 金井 浩兵庫  
 △木島義夫 千葉  
 私立錦城商業學校 奥田繁藏 東京  
 薩摩治兵衛商店 白崎 武福井  
 同五年卒業(九人)  
 東京市立商業學校 習田 敦兵庫  
 三井物産株式會社 ×原田作之助 山形  
 北海道廳立小樽商業學校 皆川 一茨城  
 熊本縣立商業學校 今井三吉 富山  
 熊本縣立商業學校 樋口 浩岐阜  
 愛知縣第一師範學校 杉本司馬三郎 愛知  
 福井縣師範學校 今村直人 福岡  
 愛知縣名古屋市第二高等小學校 大場健治 山形  
 同六年卒業(六人)  
 長坂千里 長野

北海道廳函館師範學校 加藤仙正 愛知  
 東京市立京橋高等小學校 松崎實次 愛知  
 東京府青山師範學校 提箸蘇一郎 栃木  
 北海道廳立小樽商業學校 畑中英太郎 愛知  
 東京市立日本橋區第五實業補習夜學校 神倉佐安 神奈川  
 群馬縣佐波郡伊勢崎町立商工補習學校 塚田知一 東京  
 同七年卒業(十人)  
 合名會社鈴木商店 井上光次 京都  
 三重縣立四市日商業學校 渡邊秀雄 山形  
 合計百九十九人  
 北海道廳立小樽商業學校 伊藤義一 廣島  
 北海道上野原師範學校 相澤直美 北海道  
 古河鐵業株式會社 山科 勉 山形  
 滿洲營口實業學校 山崎善次 鳥取  
 北海道廳立函館師範學校 遠山儀八 巖手  
 京都市立商業實修學校 森脇壽一 兵庫  
 神戸市立神港商業學校 西森義親 愛媛  
 静岡市立静岡商業學校 有賀清海 長野

卒業生府縣別表

道	府	縣	設置以來卒業	本年卒業	合計
北海道	東京	京都	大正六年迄卒業	本年卒業	合計
三	九	一		一	一
三	九	一		一	一
三	九	一		一	一

卒業生府縣別表

岡 島 鳥 富 石 福 秋 山 青 巖 福 宮 長 岐 滋

卒業生府縣別表

山 根 取 山 川 井 田 形 森 手 島 城 野 阜 賀

二 五 一 六 一 八 一 三 一 三 七 二 二 六 六

| | - | | | | 二 | - | | - | |

三五

二 五 二 六 一 八 一 五 一 四 七 二 三 六 六

山 靜 愛 三 奈 朽 茨 千 群 埼 新 長 兵 神 大

奈

梨 岡 知 重 良 木 城 葉 馬 玉 瀉 崎 庫 川 阪

| 八 四 五 一 五 五 八 四 | 七 一 〇 二 |

| | | | | | | | | | | - | |

三四

| 八 四 五 一 五 五 八 四 | 七 一 二 二 |

廣	山	和	德	香	愛	高	福	大	佐	熊	宮	鹿	沖	合
島	口	山	川	媛	知	岡	分	賀	本	崎	島	繩	計	
三	二	三	〇	七	七	五	六	一	四	四	一	一	一	一八九
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇
四	三	二	〇	七	八	五	六	一	四	四	一	一	一	一九九

三六

調 査 部 規 程 (明治四十二年十月創始)

- 第一 商業ノ改善ニ資スル事項ヲ學術的ニ調査スル爲メニ調査部ヲ設ク
- 第二 調査部ハ之ヲ専攻部研究室内ニ設ク
- 第三 調査部ニ委員若干名及幹事一名ヲ設ク
- 第四 委員ハ本校教員中ヨリ幹事ハ委員中ヨリ學校長之ヲ命ス
- 第五 調査部幹事ハ委員會ノ議事ヲ整理シ調査補助ヲ指揮シテ材料ノ整頓ヲ掌ル
- 第六 調査事項ハ委員ノ決議ニ依リ學校長ノ許可ヲ經テ之ヲ定ム
- 第七 調査部ニ若干名ノ調査補助ヲ置ク
- 第八 調査部ノ發送スル文書ハ學校長又ハ學校ノ名ヲ以テス
- 第九 調査ノ結果ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ發表ス
- 第十 調査部ハ必要ト認ムルトキハ銀行會社等ノ依頼ニ應シテ調査ヲナスコトアル可シ

調 査 材 料 貸 付 規 程

- 第一 本部ノ調査材料ハ左記ノ者ニ限り之ヲ貸付ス可シ

調 査 部 規 程